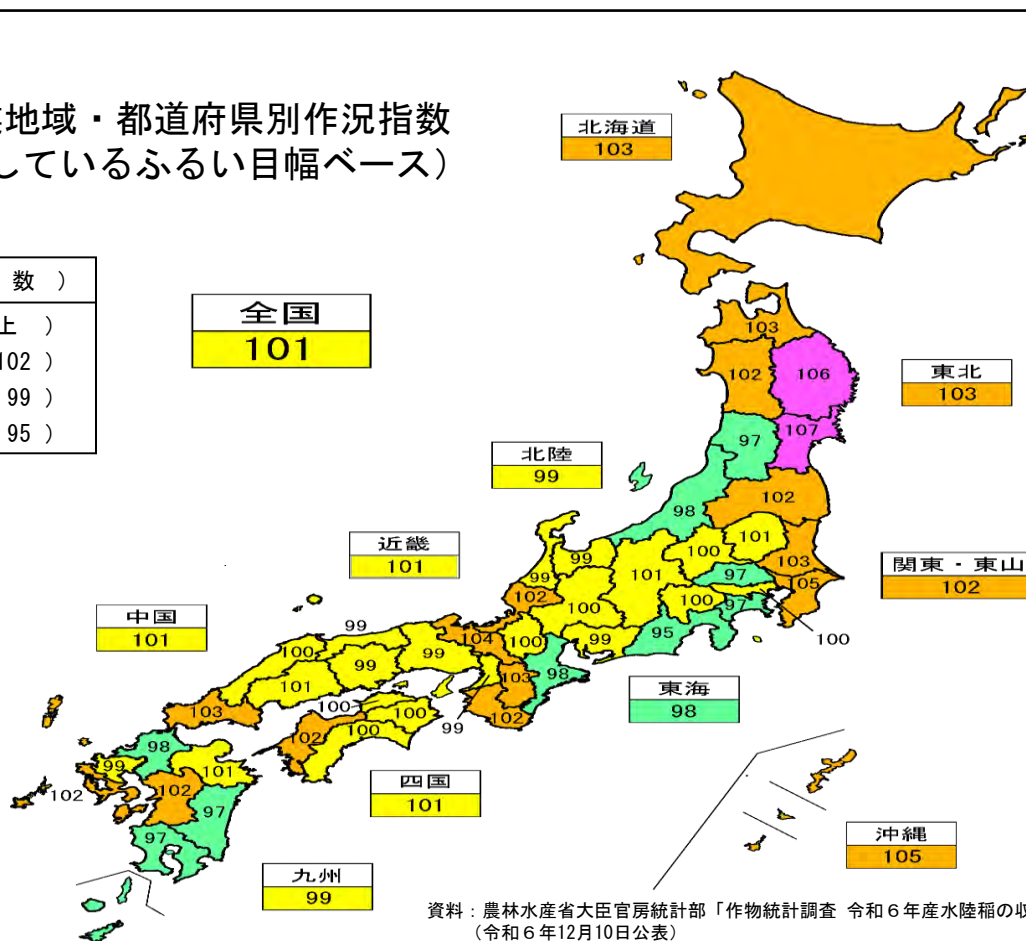


令和6年産水稻の作付面積及び収穫量

- 令和6年産水稻の作付面積（子実用）は135万9,000ha（前年産に比べ1万5,000ha増加）となった。うち主食用作付面積は125万9,000ha（同1万7,000ha増加）となった。
- 水稻の全国の10a当たり収量は540kgと見込まれる。これは、全国的にはおおむね天候に恵まれたためである。なお、一部地域で5月下旬から6月上旬にかけての低温や6月下旬から7月中旬にかけての断続的な日照不足、8月以降の記録的な高温等の影響により収量が低下した。
- 以上の結果、水稻の収穫量（子実用）は734万5,000t（前年産に比べ18万t増加）と見込まれ、主食用の収穫量は679万2,000t（同18万2,000t増加）と見込まれる。
- 農家等が使用しているふるい目幅ベースの全国の作況指数は101と見込まれる。

水稻の全国農業地域・都道府県別作況指数
（農家等が使用しているふるい目幅ベース）

作柄の良否（作況指数）	
	良（106以上）
	やや良（105～102）
	平年並み（101～99）
	やや不良（98～95）



注：1 作況指数は、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率であり、都道府県ごとに、過去5年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。

2 徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県の作況指数は早期栽培（第一期稲）、普通栽培（第二期稲）を合算したものである。